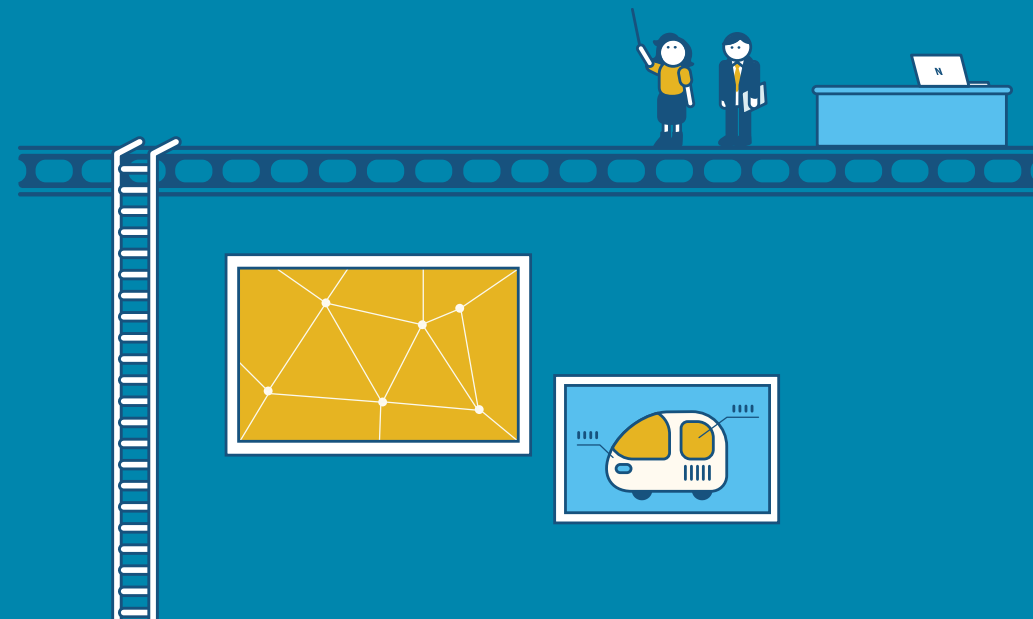


Aichi-Nagoya Startup Ecosystem Consortium

Activity Report of 2022-2023



Introduction

本レポートの目的

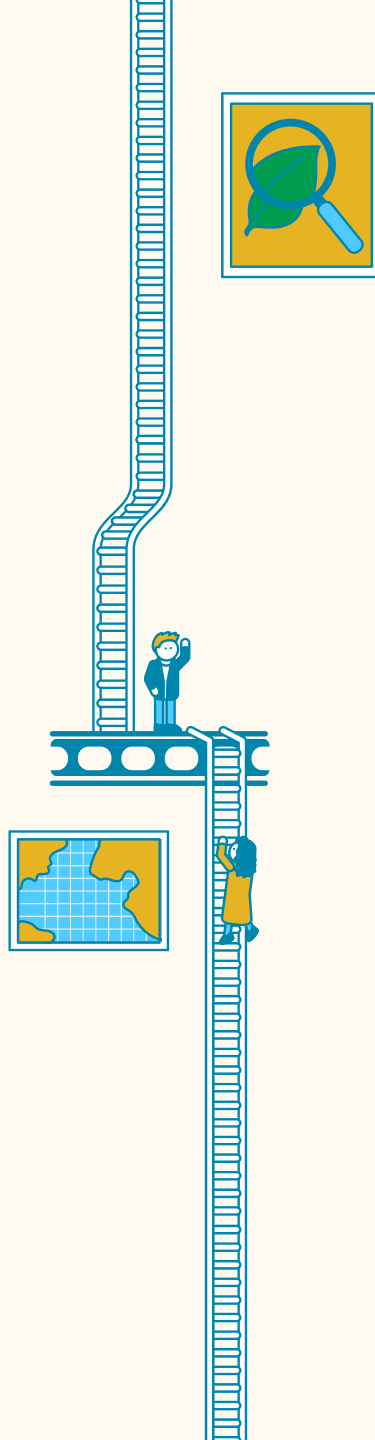
愛知・名古屋圏は、ものづくり産業の世界的な集積地であり、大都市ならではの商業・サービス業の厚い集積を持った経済力を維持してきました。

一方で、近年、AI・IoTなどの先端技術の急速な進展により、産業を取り巻く状況は劇的に変化しており、自動車産業においては、100年に一度の変革期と言われるなど、大きな転換点を迎えているところです。

また、海外においては、GAFAMを中心にスタートアップから始まった企業が経済成長を牽引している状況となっており、当地域だけでなく、我が国全体としても大きく出遅れている状況です。

こうした中で、当地域としては、新たな産業基盤を創出し、産業競争力を強化していくことが非常に重要です。そのため、従来の考え方にとらわれず自由な発想で新たな価値を生み出していくイノベーション創出の担い手となるスタートアップを創出し、成長を支援することが必要であると考えています。

愛知・名古屋地域は2020年7月にスタートアップ・エコシステム「グローバル拠点都市」に選定されたことを契機とし、地域一丸となってスタートアップ・エコシステム形成に取り組んでいます。エコシステム形成を推進するために組成したAichi-Nagoya Startup Ecosystem Consortiumでは、エコシステム形成に向けて具体的なKPIを定めた上で、各種施策に取り組んでいます。このたび、2020年から2023年におけるKPIの達成状況をインフォグラフィクスを用いて可視化し、検証での活用と認知のためにレポートを作成いたしました。



index

- 01 コンソーシアムについて
 - エコシステム形成の計画と目標—Vision/Mission
 - エコシステム形成に向けた4つの重要コンセプト
- 02 エコシステム形成のための6つのKPI
- 03-04 コンソーシアムが定める6つのKPIと2022年度の成果
- 05-10 2022年度の実績
 - KPI 1 起業を志す人材・イノベーション人材の輩出
 - KPI 2 様々なプレーヤー間の共創による新規事業開発件数
 - KPI 3 海外スタートアップ企業と当地域企業とのビジネスマッチング件数
 - KPI 4 資金調達額
 - KPI 5 スタートアップの起業数
 - KPI 6 100億円以上の売上規模のスタートアップ創出
企業評価額1,000億円以上企業創出
- 11 今後の展望

Consortium

コンソーシアムについて

愛知・名古屋・浜松地域のスタートアップ・エコシステムを形成するためにコンソーシアムを組成して活動しています。

スタートアップが持続的に創出されるためには、起業家、起業支援者、企業、大学、金融機関、公的機関等が結びつき、発展を続けるエコシステム（生態系）を形成することが不可欠です。

愛知・名古屋・浜松地域では、一般社団法人中部経済連合会、名古屋大学、愛知県、名古屋市、浜松市等で、「Central Japan Startup Ecosystem Consortium」を組成し、スタートアップ・エコシステムの形成を進めています。

2020年7月には、愛知・名古屋及び浜松地域がスタートアップ・エコシステム「グローバル拠点都市」として内閣府から選定されたところであり、当地域一丸となって、スタートアップの創出及び育成支援に努めています。

Concept

エコシステム形成に向けた4つの重要コンセプト

1



卓越した次世代型教育を受けた人材の輩出

2



ディープテックを活かした共創・オープン化による社会実装・社会課題解決

3



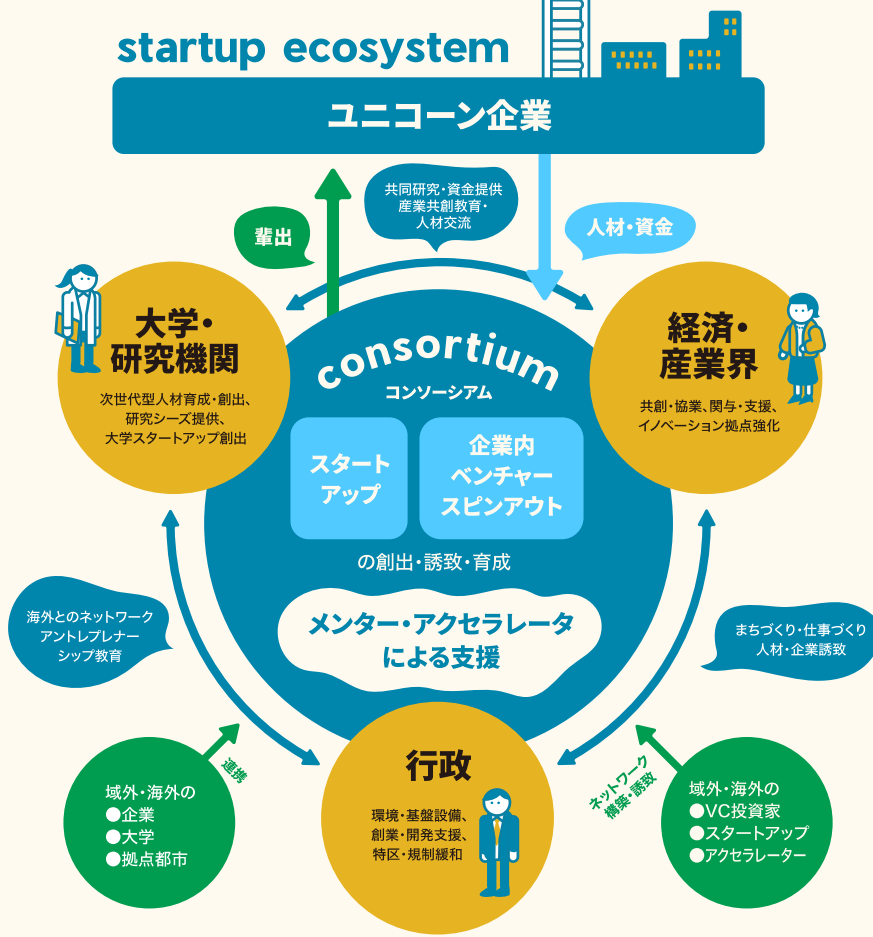
海外ネットワークの拡大・深化と求心力の強化

4



ベンチャーファイナンスの仕組みを構築

startup ecosystem



Plan & Target

エコシステム形成の計画と目標

Vision:

「日本経済を牽引する成長」、スタートアップと新産業の創出が続く新しい社会「Next Society」を実現。

Mission:

この地域の強みであるものづくり産業と基礎研究の集積から生まれるディープテックを活かしたスタートアップエコシステムを形成する。

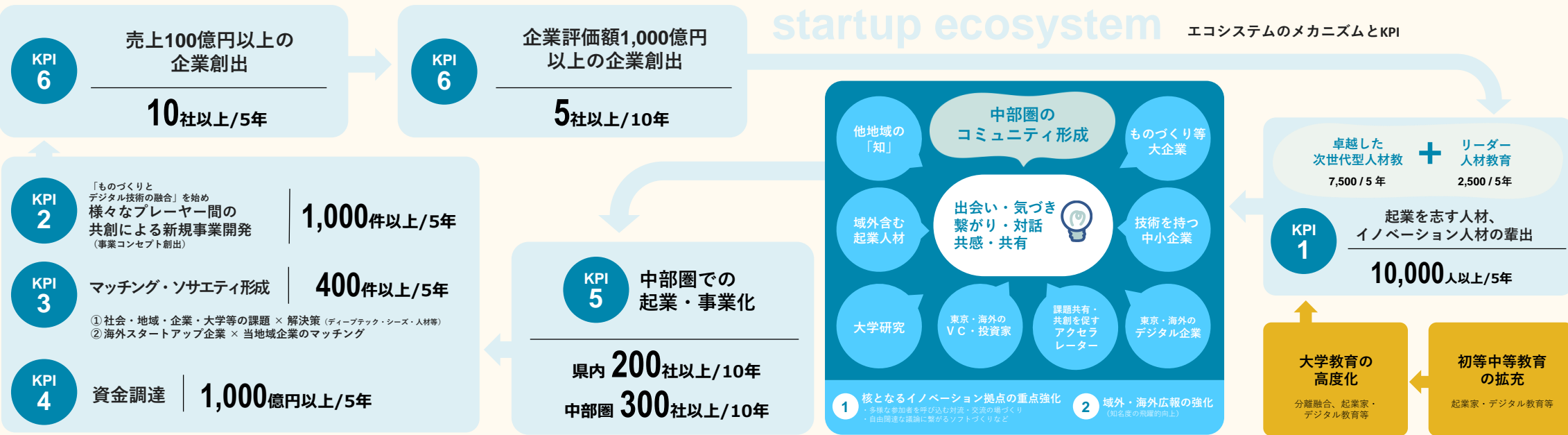


6 KPIs of Ecosystem Building

エコシステムが定めるスタートアップエコシステム形成にあたり、中部圏のスタートアップの起業数、新規ビジネスの創出件数や資金調達額などについて、年度ごとの目標値と5年後の具体的な目標値を定め、達成度を検証しています。

KPI 1	起業を志す人材・イノベーション人材の輩出	10,000人以上 /5年
KPI 2	様々なプレイヤー間の共創による新規事業開発件数	1,000件以上 /5年
KPI 3	海外スタートアップ企業と当地域企業とのビジネスマッチング件数	400件以上 /5年

KPI 4	資金調達額	1,000億円以上 /5年
KPI 5	スタートアップの起業数	県内 200社以上 /5年 中部圏 300社以上 /5年
KPI 6	100億円以上の売上規模のスタートアップ創出 企業評価額1,000億円以上企業の創出	10社以上 /5年 5社以上 /5年



The Achievement in 2022

2022年度末までの拠点都市の取り組みと達成率

KPI
1

起業を志す人材・
イノベーション人材の輩出



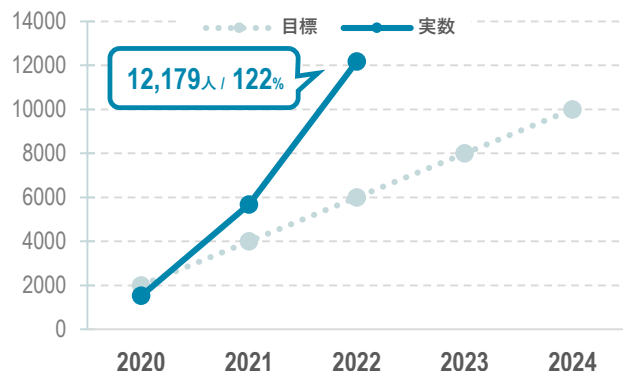
2022年度
達成数

累計

12,179人

達成率

122%



KPI (5年) : 10,000人以上

KPI
2

様々なプレイヤー間の
共創による新規事業開発件数



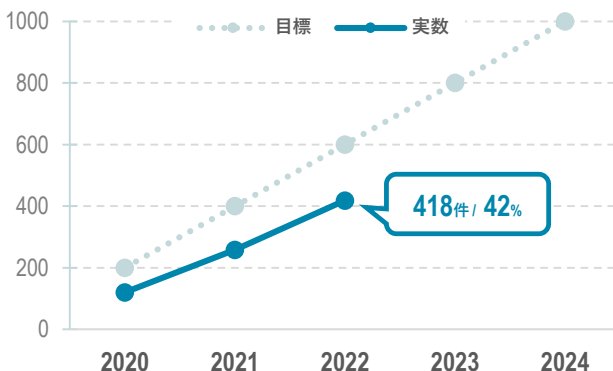
2022年度
達成数

累計

418件

達成率

42%



KPI (5年) : 1,000件以上

KPI
3

海外スタートアップ企業と当地域
企業とのビジネスマッチング件数



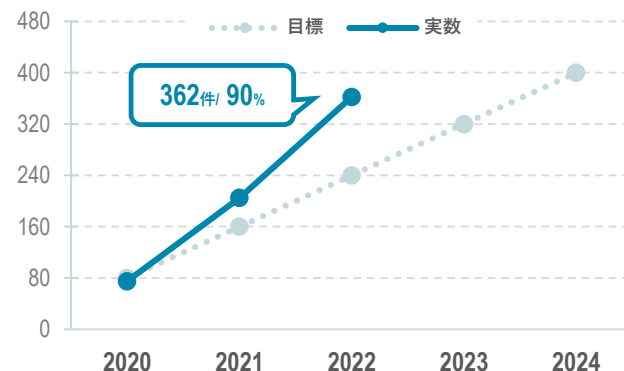
2022年度
達成数

累計

362件

達成率

90%



KPI (5年) : 400件以上

The Achievement in 2022

2022年度末までの拠点都市の取り組みと達成率

KPI 4 資金調達額



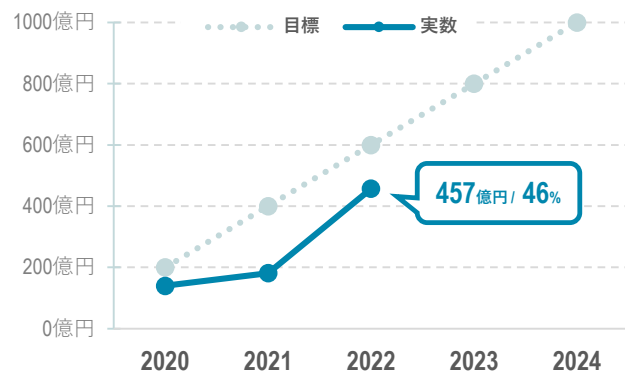
2022年度
達成数

累計

457 億円

達成率

46%



KPI (5年) : 10,000 億以上

KPI 5 スタートアップの起業数



県内

160 社

80%

2022年度
達成数

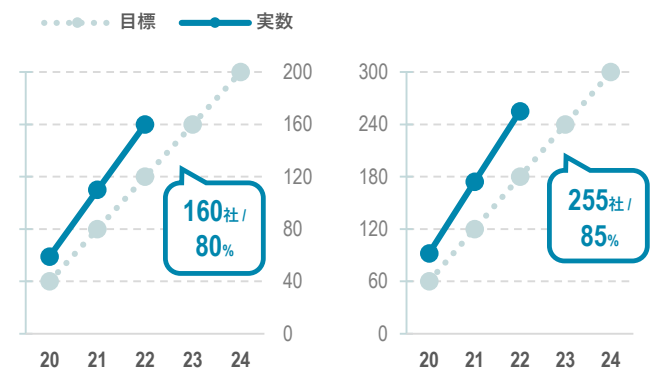
累計

中部圏

255 社

達成率

85%



KPI (5年) : 県内 200 社以上 中部圏 300 社以上

KPI 6-1 100億円以上の売上規模の スタートアップ創出数



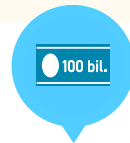
2022年度
達成数

累計

1 社

KPI (5年) : 10 社以上

KPI 6-2 企業評価額1,000億円以上 企業の創出数



2022年度
達成数

累計

0 社

KPI (10年) : 5 社以上



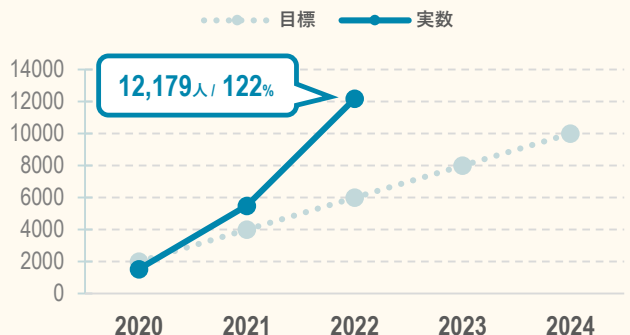
The number of new entrepreneurs and innovators

起業を志す人材・イノベーション人材の輩出

The Achievement in 2022

累計 12,179人

KPI (5年) 10,000人以上



2022年度の主な取り組み

- トンガリプログラム (名古屋大学等) : 3,416人
- イノベーターズガレージプログラム (中経連) : 980人
- 高校生スタートアップ創出促進事業 (名古屋市) : 156人

- 小中学生起業家育成事業 (名古屋市) : 1,129人
- あいちスタートアップキャンプ (愛知県) : 31人

イノベーター・起業家創出プログラム

スキル習得・アイデア創出

NAGOYA BOOST
10000 (名古屋市)

AI/IoTを活用した起業や新事業創出に取り組む人材を育成
50人

起業家育成

あいちスタートアップキャンプ (愛知県) **31人**
「革新的ビジネスアイデア」を持った人材、生み出したい人材を発掘し、スタートアップ起業者として育成

イノベーション人材

ビヨンドザボーダー(中部経済連合会(イノベーターズガレージ)) **65人**
共通社会基盤の理解・深化、未来社会の構想、異分野融合による共創を通じて、新たな価値の創造を力強く推進していく人材を育成

起業家教育プログラム (名古屋市経済局)



Elementary school student
小学生起業家育成事業

小学生起業家たまご塾 **611人**



Junior high school student
中学生起業家育成事業

「スタートアップ1DAY」
「スタートアップ2DAYS」 **518人**



Senior high school student
高校生スタートアップ創出促進事業
(2021スタート)

「ティーンズ・ミートアップ」
「スタートアップ・ユースキャンプ」 **156人**

(名古屋大学他)



EDGE-NEXT
SCORE大学推進型

Tongali 3,416人



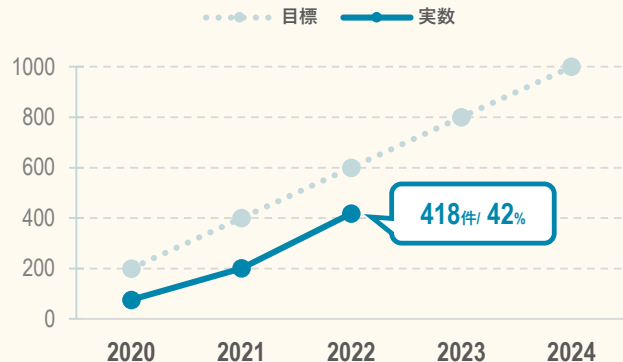
The number of new businesses co-created by diversified players

The Achievement in 2022

様々なプレイヤーの共創による新規事業開発件数

累計 **418**件

KPI (5年) / **1,000**件以上



先進技術社会実証支援事業 HATCH TECHNOLOGY NAGOYA

事例：堀川のごみ × 海洋ドローン(株式会社平泉洋行)



堀川ごみのメカニズム解明と対策の実証
～川に浮かぶごみをなくしたい！～

堀川の浄化

海洋ドローン



株式会社平泉洋行

海洋ドローンを使用して定期的に浮遊ごみを回収するとともに、ごみの可視化を行った。
諸条件を変更しながら効果的な回収方法を検証。

2022年度の主な取り組み

スタートアップ共創促進事業(名古屋市)
先進技術社会実証支援事業(名古屋市)

あいちマッチング(愛知県)
スタートアップ企業海外連携促進事業(愛知県・名古屋市) など



スタートアップ
共創促進事業
NAGOYA Movement

プログラム参加企業

株式会社中日新聞社

日本ガイシ株式会社

株式会社バローホールディングス



中部電力株式会社

株式会社フジミインコーポレーテッド

矢崎エナジーシステム株式会社



マッチング・
プロジェクト件数

15件

KPI
3



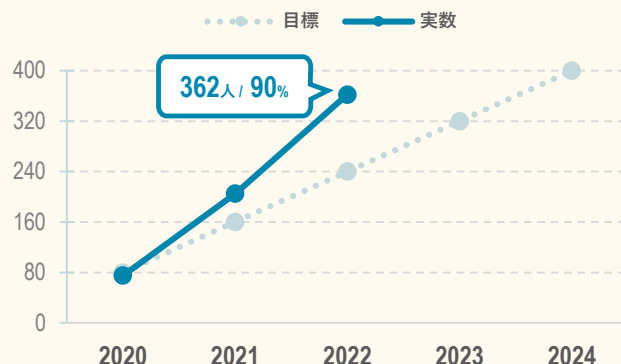
The number of business matchings between overseas startups and local companies

海外スタートアップ企業と当地域企業とのビジネスマッチング件数

The Achievement in 2022

累計 **362**件

KPI (5年) / **400**件以上



グローバルコミュニティの形成 NAGOYA CONNECT Powered by Venture Cafe

米ポストン発、5カ国・10拠点で開催されているイベントプログラム「Venture Cafe」と連携し、月2回なごのキャンパスにてイベントプログラムを実施。
(名古屋×Venture Cafe Tokyo)



グローバルプロモーションメッセージ Homeland of Mobility 5.0 (2022)

近未来のモビリティを追求し、社会にインパクトを与える「Homeland of Mobility 5.0」というメッセージを決定。
国内外の投資家、企業、人材を呼び込み、世界中の起業家を応援するオープンイノベーション創出拠点となることを目指し情報を発信。



主な連携先国・地域

アメリカ、フランス、イギリス、ドイツ、シンガポール、中国、国、イスラエル など

海外ネットワークの拡大・深化と求心力の強化

● 海外の機関と連携したスタートアップ支援 ● 世界に向けたブランド発信

France



フランス

- STATION F
- INSEAD
- パリ市
- Paris & Co
- IMT Atlantique
- Bpifrance
- AuRA地域圏

China



中国

- 清華大学 (TUSホールディングス)
- 上海交通大学
- 浙江大学

The USA



アメリカ

- テキサス大学オースティン校

Israel



イスラエル

- イスラエルイノベーション庁
- Start-Up Nation Central

Singapore



シンガポール

- シンガポール国立大学

※愛知県の海外連携機関



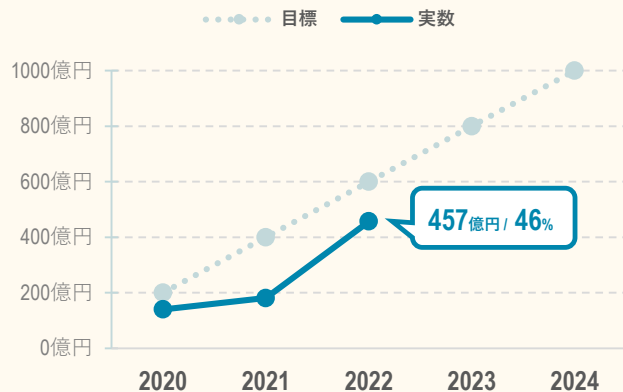
The amount of fundraising

資金調達額

The Achievement in 2022

累計 **457** 億円

KPI (5年) / **1,000** 億円以上



2022年度の大学発スタートアップ 資金調達額

順位	大学名	調達額 (億円)
1	慶應義塾大学	245
2	東京大学	207
3	名古屋大学	142
4	京都大学	128
5	筑波大学	56

名古屋大学は第3位

投資額は堅調に推移

約**65**億円 (2015-2019年の5年平均) ▶▶ 約**152**億円 (2020-2022年の3年平均)

2022年度の主な資金調達事例

資金調達例①



名古屋大学発ベンチャー

株式会社ティアフォー

2022年資金調達額

121.7 億円

主な出資先

- SOMPOホールディングス株式会社
- ヤマハ発動機株式会社

資金調達例②



株式会社SkyDrive

2022年資金調達額

91 億円

主な出資先

- 関西電力株式会社
- 損害保険ジャパン株式会社

資金調達例③



名古屋大学発ベンチャー

株式会社オプティマインド

2022年資金調達額

20 億円

主な出資先

- トヨタ自動車株式会社
- Spiral Capital株式会社

KPI
5



The number of new startups

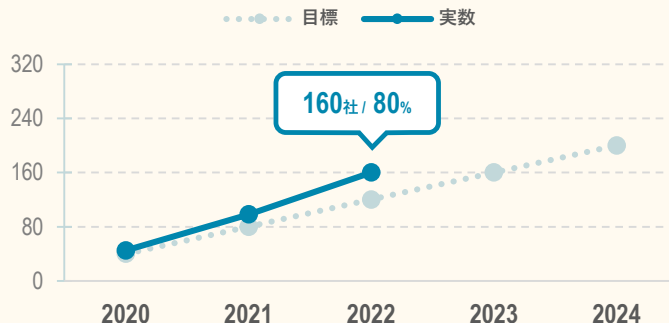
スタートアップの起業数

The Achievement in 2022

スタートアップの創出・育成

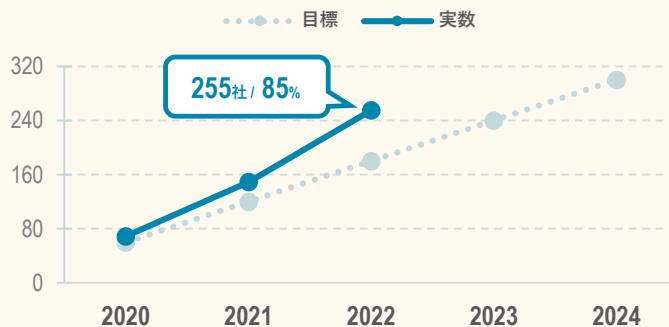
県内
累計 **160社** **80%**

KPI (5年) / **200社以上**



中部圏
累計 **255社** **85%**

KPI (5年) / **300社以上**



県内における1年間のスタートアップの起業数を倍増

県内**22社** (過去5年最高) ▶ 県内**50社** (2022年)

STASUPPO



STASUPPOは、東海地域のスタートアップ起業家のための、事業プランの相談や事業拡大に向けた人脈づくりを支援するコミュニティ

GLOW TECH NAGOYA



次世代の産業を担い、世界で戦えるスタートアップを本気で支援するためのプログラム。スタートアップの聖地、シリコンバレーで活躍する起業家、投資家、研究者、法律家など、各ジャンルのプロフェッショナルが、講師やメンターとして参加し、世界に通用するビジネスを生み出すため全面的にバックアップ。



参加者のうち2022年度に活躍したスタートアップ

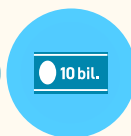
AquaAge株式会社

2022年9月設立
VC及びエンジェル投資家よりPre-seedラウンドで合計1200万円調達 (2022年7月)

株式会社U-MAP

2022年4月設立
三菱マテリアル株式会社との共同開発を開始 (2021年10月)、シリーズBで約7億円の資金調達 (2022年12月)

KPI
6-1



100億円以上の売上規模の
スタートアップ創出数

The number of startups whose sales are more than 10 billion yen

2022年度
達成数

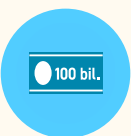
累計

1社

KPI
(5年)

10社以上

KPI
6-2



企業評価額1,000億円以上
企業創出数

The number of startups whose company value is more than 100 billion yen

2022年度
達成数

累計

0社

KPI
(5年)

5社以上

J-Startup CENTRAL

J-Startup CENTRAL

Representative startups in Central Japan

IoTデバイス/ICT/アプリ IoT Devices/ICT/Apps	AI/制御 AI/Control	モビリティ Mobility	医工/バイオ Medicine and engineering/BIO
 ロボティクス Robotics 	 サービス/プラットフォーム Service/Platform 	 航空/宇宙 Aerospace 	 製造/素材・マテリアル Manufacture/Materials
		<p>J-Startup CENTRAL J-Startup</p> <p>28 6</p> <p>companies</p>	 環境/エネルギー/社会 Environment/Energy/Society

The Future Outlook

今後の展望

2022年～2023年にかけてはスタートアップ・エコシステムの構築に向けて、芽吹いた若葉を大きく育てるために取り組む1年となりました。

2020年度は、2020年7月に内閣府のスタートアップ・エコシステム「グローバル拠点都市」に選定されたことを契機とし、金融機関をはじめ様々なセクターとの連携も進みました。

2021年度は、Central Japan Startup Ecosystem Consortiumサポーター制度を立ち上げ、地域が一体となりスタートアップを支援する体制を強化しました。また、小学生から大学生までの成長段階に応じたプログラムの拡充やTongali参画大学の増加などアントレプレナーシップ教育をさらに充実させることで将来のイノベーションを担う人材のすそ野を拡大しました。

2022年度は、スタートアップ企業がいつでもメンタリングを受けられるようなコミュニティを作る取り組みや、ナゴヤイノベーターズガレージアネックスのオープンなど、常に起業したい人が集い繋がることで成長できる環境が整ってきました。

2023年度は、更に広く愛知名古屋の地域外のスタートアップ・エコシステム関係者を巻き込みながら、翌年に開業が迫ったStation Aiの開業に向けて、スタートアップが成長する環境の整備に引き続き取り組んでいきます。

Aichi-Nagoya Startup Ecosystem Consortium

Activity Report of 2022-2023

